

模擬保育による学生の教授力・評価力の向上に 関する取り組みと課題

— ビデオ撮影による自己評価とピア評価・教員評価の効果の検証 —

池田 充裕

1. はじめに

(1) 教職課程における「教育方法論」の位置づけ
山梨県立大学（以下、本学）は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭と養護教諭の普通免許状養成課程を設けている。これらの免許状を取得するために、教育職員免許法施行規則は、「教職に関する科目」内の「教育課程及び指導法に関する科目」（養護教諭では「教育課程に関する科目」の一つとして、「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位修得を求めている。また、同科目の開設にあたり、教職課程認定基準（中央教育審議会・教員養成課程部会決定）は、同一学科内では幼稚園・小学校教諭課程の共通開設、また複数の学科にまたがる場合には中学校・高等学校・養護教諭課程での共通開設を認めている。

本学ではこの「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目として、中学校・高等学校・養護教諭課程については、4つの学科（総合政策、国際コミュニケーション、福祉コミュニティ、看護）に「教育方法論（中・高・養）」を開設してきた。一方、人間形成学科では、共通開設も可能ではあるが、幼稚園教諭課程に「教育方法論（幼稚園）」、小学校教諭課程に「教育方法論（小学校）」（平成25年度より開講）を個々に設けて、子どもの発達段階や現場の指導実態により即した教授法の理論や技術の習得を目指して

いる。

(2) 中学校・高等学校・養護教諭課程「教育方法論」における模擬授業の実践

2年次科目の「教育方法論（中・高・養）」では、教授・学習理論、カリキュラムの編成と教育目標の設定、評価の意義・種類・方法、学習形態、教材研究、学習指導案の作成、指導言（発問・指示・説明）、教育メディアの活用などの内容を取り上げた上で、3・4年次に予定されている教育実習に向けて、全ての履修生に模擬授業の実践を課してきた。

模擬授業は教職課程内において、国語科指導法等の「各教科の指導法」、教育実習前の事前指導、新たに設けられた「教職実践演習」での実施が考えられるが、それぞれの課題意識や到達目標は自ずと異なる⁽¹⁾。例えば「各教科の指導法」では教科の専門知識の確認や教材分析が主となるし、実習事前指導では実習への心構えを養うことが模擬授業を通して期待されるだろう。

これに対して本学の「教育方法論（中・高・養）」の模擬授業では、より技術的・実践的側面に力点を置いてきた。その手法は次のようなものである。まず、中学・高校での対象学年を授業担当者が個々に設定した上で、国語科、英語科などの担当教科の模擬授業を20分間行う。そして、生徒役の同級生（ピア）が、「指導言」（声の大きさや発音、話し方、発問内容）、「板書」（筆致の正確

（所 属）

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 准教授

さや板書設計)、「資料」(読み物資料やワークシート、視聴覚教材の活用)、「生徒への対応」(生徒の興味や関心を引き出す工夫、全体への配慮や生徒の理解度の把握)、「授業設計」(時間配分や授業全体のメリハリ、内容難度)、「態度」(授業に対する熱意や意欲)といった評価項目について、5段階で評価し、授業への感想も併せて記述して提出する。教員は無記名で回収したピア評価の結果を集計して、項目別の到達度チャート図を作成し、感想コメントの内容を整理して、授業担当者にフィードバックを行う。その際には、板書を撮影した写真も提供して、模擬授業全体の自己評価と改善を促してきた。

(3) 幼稚園教諭課程「教育方法論」における模擬保育の課題

中学生や高校生を想定した模擬授業ならば、大学生が生徒役となって実施⁽²⁾することも可能だが、幼児を対象に据えた場合、これは困難である。また、中学生や高校生に比べて、幼児の反応や行動は教員側の予想を超えることも多々あり、幼稚園教諭にはより高い柔軟性や瞬時の判断力が必要とされる。子どもの興味・関心、心の動きを理解し、授業の実践力を高めるためにも、幼児を想定した模擬保育では、やはり実際の子どもたちを前にして行われることが望ましいだろう。

また、中学校や高校では、教員が教科書や教材、板書を用いて、発話・指示・説明・応答といった言語的コミュニケーションを中心に授業を進めていくが、幼稚園教諭の場合、読み聞かせや手遊び、歌唱、ゲーム活動など各種表現領域での指導が多くなる。そこでは顔の表情や声色、歌唱や動作など、より豊かな表現力や身体的なコミュニケーション力が要求される。

模擬授業(保育)を記録する際、やはり両者のこのような指導の特性や教諭に求められる技量の違いに配慮した形態を取る必要があるだろう。この点で、後者の模擬保育を記録するにあたっては、ビデオカメラを利用し、子どもと教諭のコミュニケーションの実態や、教諭の表情や動きの実際を撮影・記録することが、その後の振り返り活動においてより効果的であろうと考えられる。

(4) 本研究の目的

以上の課題を踏まえて本研究では、これまでの「教育方法論(中・高・養)」で培ってきた模擬授業の手法に加えて、以下の2つの新しい試みを採用した。

- ①実際の幼児を対象とした模擬保育を行い、担当以外の学生はこれを直接観察し、評価する。
- ②模擬保育の様子をビデオカメラで撮影し、活動後に、担当学生や参観学生とともに視聴して、自己評価・ピア評価を行い、改善箇所や改善策を全員で検証し共有する。

そして講義の最後には、「同級生(ピア)の模擬保育を観察・評価する」「ピアから自身の模擬保育への評価を受ける」「自身の模擬保育をビデオで観察・評価する」という3つの観察・評価活動を振り返って、学生にレポートを記述してもらう。そしてレポート内容を分析し、今回の模擬保育の取り組みにおいて、教授力や評価力の向上の効果がどの程度見られるのか検証を行いたい。

2. 2011年度「教育方法論(幼稚園)」の模擬保育の内容

(1) 実施方法

1. 授業担当学生・参観学生の属性

「教育方法論(幼稚園)」を履修した人間形成学科2年生25名全員が模擬保育を担当・参観した。履修生は既に1回目の幼稚園実習(2週間)を終えており、現場での指導を受けて、指導案の作成や教材の開発など、一通りの保育実践を経験した。しかしまだ初回の実習では半日程度の部分実習を担当するにとどまっており、2回目の幼稚園実習では、全日を通して子どもたちを預かる責任実習が控えている。この点からも、この時期に模擬保育を通して、自己・ピア評価を重ねることは自他の保育姿勢や技量を改めて見直す意味でも適切であると考えられる。

模擬保育は各回3~4名のグループで担当し、全7回実施した。グループごとに、“各自が指導案を立てて一人当たり15分を担当×4活動”、“全員で合同の指導案を立てて、時間を区切って担当者が交替”といった形で実施計画を練った。その

上で「模擬保育計画書」に「模擬保育のねらい」「各人の担当内容」「具体的に準備する内容・教材」「保育の流れ」をまとめて、提出した。

また全員に「保育の展開」や「模擬保育の反省点」を記入する「模擬保育指導記録」用紙も配布し、模擬保育後に提出するように指導した。

2. 参加した子どもの属性

本学近隣の保育所の協力を得て、年中組（4歳児）15名（男児8名・女児7名）と年長組（5歳児）15名（男児4名・女子11名）が交替で参加した。

3. 模擬保育の環境構成（利用施設・機材・資料）

活動内容に合わせて、保育学実習室（約65㎡）

または講堂（約150㎡）を利用した。実習室（図1）には、製作活動に備えて、幼児用のテーブル5台、椅子20脚を揃え、幼児用ハサミやクレヨン、カラーマーカーなどを用意した。

また今回はハードディスク記録式のビデオカメラを用意し、筆者が模擬保育の様子を撮影した。撮影位置は、基本的に子どもたちの視線に沿うように、子どもたちの背後から保育者正面を映す角度とした。

評価する学生には、図2のような「模擬保育評価シート」を配布した。また、保育所から引率で同行した保育者にも、模擬保育の感想を記入して

【図1 模擬保育の様子】



【図2 ピア評価に用いた質問票の形式】

授業担当者名	対象年齢					
話し方	1. 声の大きさや発音、話し方が適切で、聞きやすかった	5	4	3	2	1
説明	2. 教材や活動内容の説明が適切で、分かりやすかった	5	4	3	2	1
子どもたちへの対応	3. 子どもたちの興味や関心を引き出そうと工夫していた	5	4	3	2	1
	4. 子どもたちへの声かけの内容が適切であった	5	4	3	2	1
活動計画	5. 子どもたち全体に目を配り、一人ひとりの進み具合を把握しながら活動を進めていた	5	4	3	2	1
	6. 子どもたちの年齢・月齢に適した活動内容だった	5	4	3	2	1
態度	7. 時間配分が適切であった	5	4	3	2	1
	8. 授業に対する熱意や意欲が感じられた	5	4	3	2	1
総合	9. 総合評価	5	4	3	2	1
感想						

いただく用紙を準備し、後日学生へのフィードバック評価資料の一つとして用いた。

(2) 評価方法

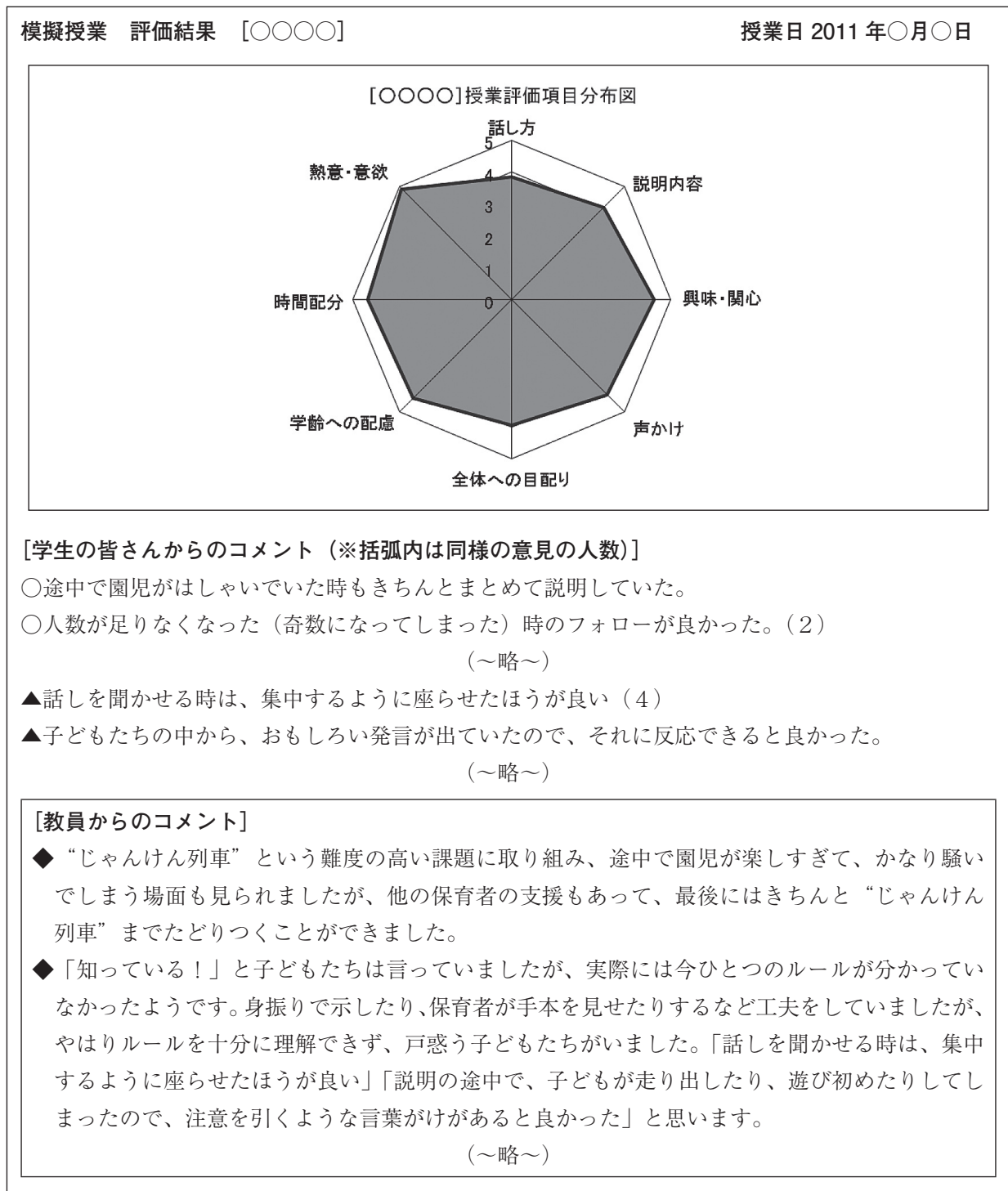
1. ピア評価

ピア評価には、図2のような質問項目からなる無記名の「模擬保育評価シート」を用いた。参観学生は模擬保育の活動中にこのシートに評価を記

入し、終了後に回収ボックスに投函させた。

回収後は「教育方法論（中・高・養）」で採った手法と同じように、筆者が評価項目別に個々人の到達度チャート図を作成した。また学生からの感想コメントも記入者が誰か分からないように、その全てを筆者が活字に打ち直して、処理を施した（図3参照）。そして模擬保育の翌週の授業で

【図3 評価結果レポートの一例】



到達度チャート図とともに、担当者本人にはコメントの全てを、また参観した学生には「教員からのコメント」内にその一部を引用し、「模擬保育評価結果レポート」として公開・配布した。

2. 教員評価

参観学生から提出された評価シートの内容や記録映像を眺めた上で、教員の側でも「評価結果レポート」内に「教員からのコメント」ということで評価を行った。参観学生から多く指摘された内容を挙げるとともに、教員側で気になった点や改善を求めたい点を簡略に記した。

3. 自己評価

模擬保育の翌週の授業では、「評価結果レポート」とともに、筆者が編集した模擬保育の記録映像もDVDに記録して公開した。既に前週に担当以外の学生は模擬保育を直接観察したわけだが、改めて教員の側でポイントとなる箇所映像を停止し、静止画の状態状態で留意点や改善点などを指摘して、なぜそのようになったのか、どのような改善策が考えられるか等、全員で意見交換を行った。

担当学生には、自身でまとめてきた「模擬保育指導記録」、ピア評価や教員評価をまとめた「評価結果レポート」、そして自身の映像記録の3つを確認した上で、改めて自身の模擬保育で良かった点や今後改善していきたい点を発表してもらった。最後に、担当学生全員には、いつでも振り返ることができるように、グループ全員の模擬保育の様子を記録したDVDを供与した。

3. 振り返りレポートの内容

本科目の最終回に行った振り返り活動で学生から提出されたレポート内容をまとめたものが、表1～3の結果である。

(1) ピア評価に対する感想①—観察・評価者として(表1)

まず、同級生(ピア)の模擬保育を観察・評価したことについては、「同級生の保育活動を参考にできた」「同級生と自分を比較することができた」「自身の保育技術の向上につながった」「同級生から刺激を受けた」「互いの保育技術の向上に

【表1 同級生(ピア)の模擬保育を観察し、評価したことに対する感想(※括弧内は同様の意見の人数)】

1. 同級生の保育活動を参考にできた

- ・一緒に学んできたが、人によって保育活動や表現の仕方などそれぞれ違って、とても勉強になった(3)／子どもへの声かけや対応など、同級生の模擬保育の良い所を学ぶことができた(2)／自分がやった題材と同じような保育活動で、「こんな手法があるのか」と新たな気づきがあった／「こんな言葉がけがあるんだ」とか、「こんなふうになれば子どもたちは集中するのか」など、自分だけでは見つけることができない、新たな発見をすることができた／私は幼稚園実習に一人で行ってきたので、同級生が子どもを相手に保育をしているところを初めて見たので、学ぶ点がたくさんあった。「こういう場面で、こういう言葉がけをしたら良いのか」「こういう表現の仕方があるのか」ということが具体的に指導方法を学べてとても勉強になった。皆の良い所を参考にして、自分に取り入れていきたい。
- ・子どもへの声かけで参考になるものが多かった／自分では思いつかなかった言葉の言い回しや気遣いなどを見ることができて、参考にしたいと思う方法や場面がいくつもあった／幼稚園実習を経験し、そこから素敵な言葉がけを知り、自分のものにした、独自の言葉がけを考えたりしたが、より多くの人たちの模擬保育を見ることで、自分も使いたいなと勉強になる発見ができた。
- ・一緒に学んできた友だちのそれぞれの模擬保育を見て、互いの良い所、参考にしたい所があり、自分の学習にもつながった／同級生の上手くいった所、失敗した所を見て、どうすれば子どもたちが集中して楽しく活動ができるのか、またどうすると、子どもたちが活動に興味を失ったり、飽きてしまったりするのか目の前で知ることができた／見ていて参考になった部分やこうしたほう

が良いのではないかという部分を発見できた／良い所も改善したほうが良い所も見られて、自分も参考にしたい点がたくさんあった／同級生の模擬保育の様子を見て、良い所や改善できそうな所を考えながら見るのはとても勉強になった。

- ・客観的に他人の保育を見る機会があまりなかったので良かった(3)／他人(友だち)が保育しているところを初めて見て、良い所を学んだり、悪い所を見つけて自分も気をつけようと思ったりと、客観的に観察できたのが良かった。(4)
- ・私は実習でも、同級生の部分実習が同じ時間に行われたので、その様子を見ることができなかった。今回の模擬保育を直接観察できたことは貴重な体験だった／実習では同じ実習先でもクラスに分かれてしまって、他人の保育の様子を見る機会が少なかったので、とても新鮮だった／実習中など、皆がどのような保育をしているか(自分と同じ点や違う点)気になっていたもので、今回見ることで勉強になった。

2. 同級生と自分を比較することができた

- ・同級生の模擬保育を見て、自分との比較ができた(2)／他人の保育活動を評価することで、様々な基準から自分との比較をすることができた／他者と自分を比較することで、他者の良い点や課題を見つけることができるし、またそれが自分の参考にもなって良かった。
- ・自分の保育がどのように見られているのか、考えながら活動ができた。
- ・友だちを評価することで、自分でも反省すべき点を見つけることができた。
- ・自分が取り組んでいないものでも、どういう点に気をつけなければならないのか、また自分ならどうするか考える機会になった／同級生の模擬保育の反省点について、こうしたほうが良かったのではないかと、自分だったらどうするか考えることができた／「自分だったらこの場面ではこうしていたのかな」などと考える良いきっかけになり、様々な観点から保育を見ることができた／「自分が保育を担当していた時はどうだろう」という場面がいくつかあった。他人の活動を見ることで、自分自身の保育のスタンスや考え方を見直すことができた。
- ・何回か皆の模擬保育を見る機会があり、毎回違った活動の中で、子どもたちの様子を見ながら「自分だったら」と考えることができたので、何回も模擬保育を体験できた気がして良かった。

3. 自身の保育技術の向上につながった

- ・保育内容のアイデアをたくさんもらった／いろいろな模擬指導や遊びの方法を知ることができて良かった／自分の保育内容のバリエーションが増えた。
- ・保育の仕方にはとてもたくさん方法があるが、その方法を口で説明してもらうだけではイメージしにくい。直接、今回模擬保育を観察できたことで、自分の知識や技術を増やすことができて、とてもためになった。
- ・私は後半に模擬保育を行ったので、前の人たちの良かった点や改善点を参考にすることができた。
- ・立てていた計画が予定通りに進まないことが今回多くあったように見受けられたが、それを子どもたちのせいにして、ただショックを受けるのではなく、何が良くなかったのか、どうしたら良いのか考えるチャンスと捉えても良いのではないかと。現場では計画通りにいかないことが茶飯事だと思う。むしろ現場に出る前に、失敗も経験できて良かったと私はプラスに考えたい。

4. 同級生から刺激を受けた(保育への自信がなくなった)

- ・普段とは違う同級生の保育をする様子を見て、「もっと自分も頑張らなければ」と良い刺激になった。(4)
- ・最初からあまり自信がなかったが、他人の指導内容を見て、さらに自信をなくした。

5. 互いの保育技術の向上につながった

・互いに評価をすることで、その人の課題や改善方法を提供できるので、お互いに成長し合えると思った。(2)

6. 評価技術の向上につながった

・冷静に保育を分析することができた／評価のポイントを踏まえながら、様々な視点で保育を見ることができた。
 ・どのように評価コメントを書いたら、相手を傷つけずに“頑張ろう”という気持ちで受け取ってもらえるかなど、評価される際の相手の気持ちを考えることができた。

7. 子どもの反応・視点が確認できた

・子どもたちの反応を客観的に見ることができた。
 ・見る側になることで、子どもの目線になることができた。「意外と絵本の位置は低いんだな」など、経験的に学ぶことができた。

8. 今回の模擬保育や評価の方法について

・初めてのことだったので、とにかく毎回楽しかった。
 ・無記名で評価コメントを書けるので、直接だと相手に言いづらいマイナスの内容についても、気をつかわず率直に書くことができた。
 ・雨の関係なので仕方ないが、二つの模擬保育が同時に行われた際、片方の模擬保育を見られなくて残念だった。

つながった」「評価技術の向上につながった」「子どもの反応・視点が確認できた」という7つの観点到に意見をまとめることができた。

「一緒に学んできた友だちのそれぞれの模擬保育を見て、互いの良い所、参考にしたい所があり、自分の学習にもつながった」「『自分が保育を担当していた時はどうだろう』という場面がいくつかあった。他人の活動を見ることで、自分自身の保育のスタンスや考え方を見直すことができた」といった意見に代表されるように、ピアの活動を観察・評価する上での効果を確認することができた。

(2) ピア評価に対する感想② 一被評価者として

(表2)

ピアから自身の模擬保育の評価を受けたことについては、「自分では気がつかなかった点に気づくことができた」「自分自身の長所・短所や今後の課題が明確になった」「自分の保育技術の向上につながった」「保育への意欲が高まった・自信がついた」「自分と他者との保育の視点の違いを知った」「同級生(ピア)による評価の効果」「評価を受けることの意義が理解できた」の7つの観点到に分類できた。

当初はピア評価を受けることについて、緊張したり、嫌だと感じたりしていたようであるが、「自分には何が足りていて、何が足りないのかを知ることができて、自分の中の課題を見つけることができた」「良い所や悪い所をしっかりと指摘してもらったことで、自信につながり、これから頑張ろうと思った」など、ほぼ全ての学生が肯定的な回答を示した。

その一方で、「保育活動について、いろいろな見方があることを知ることができた」「自分がいくら頑張っても周囲の評価が高いとは限られないという現実の厳しさを改めて実感した」といったように、自他の保育観の違いを再認識したとの意見もあった。

(3) ビデオ視聴による自己評価の感想 (表3)

ビデオで自身の模擬保育を観察し、自己評価したことについては、「模擬保育中は気づかなかったことに気づくことができた」「自分の長所・短所や今後の課題が明確になった」「客観的に自分の保育を見ることができた」「他者からの評価内容を理解できた」「子どもの視点が理解できた」「DVDメディアの利点」の6つの観点が挙げられた。

【表2 同級生（ピア）から自身が模擬保育の評価を受けたことに対する感想（※括弧内は同様の意見の人数）】

1. 自分では気がつかなかった点に気づくことができた

- ・自分と違った視点でアドバイスをもらえたのが良かった／自分だけでは気づけない部分を指摘されたことで、「こういった見方もあるんだ」と知ることができて、次に活かしたいと思った／自分では子どもたちに分かりやすく、楽しそうに話しているつもりだったので、「こうしたほうが良い」と評価されて、自分では気づけなかった点に気づくことができた。
- ・自分では無意識に行っていたことを良かったと評価されたことが意外だった。

2. 自分自身の長所・短所や今後の課題が明確になった

- ・自分に足りないものは何かを知ることができた／自分では気づけなかった点の分かり、今後どのようなことに気をつけていけば良いのかが明確になった。
- ・皆からコメントをもらったことで、客観的な自分の強みや課題点のはっきりした／評価されることは怖いと思っていたけれど、良かったこと・直したほうがよい所などを知ることができたので、今後の課題や極めたい所が具体的になった／自分には何が足りていて、何が足りないのかを知ることができて、自分の中の課題を見つけることができた。
- ・自分で気づいていた所、気づいていなかった所を指摘してもらえて、自分の今後の課題が明確になった。(3)
- ・自分一人で反省をして終わりにするのではなく、反省点を皆で共有することで、これからの課題も明確になった気がする。

3. 自分の保育技術の向上につながった

- ・指導計画の段階では全く浮かばなかったアイデアを提案してもらえて参考になった／自分では思いつかなかった様々な案があり、違う視点からの考え方やアドバイスを多く聞くことができて良かった。
- ・想定外のことが起きて、パニックになってしまったが、後日アドバイスをもらえて、なるほどと勉強になった。
- ・手あそびの動きなど、自分では大きくやっているつもりでも、動きが小さいという評価があれば、自分が思っている以上にやらないと伝わらないということや、“つもり”ではいけないのだと思えるようになった。
- ・とても緊張したが、実習中の研究保育なども大勢の人の前でやるので、そのための練習にもなり良かった。

4. 保育への意欲が高まった・自信がついた（自信がなくなった）

- ・緊張したが、人に見られながらも、しっかり活動できるようにならなければいけないと思う。今回の模擬保育で少し慣れてきて、自分に自信をつけられた気がする。
- ・今まで自信がなかったが、友だちから良かった点を言ってもらえて自信を持つことができた／自分で自分の振り返りをすると、どうしてもマイナスにばかり考える傾向があるので、ここが良かったと言ってもらえると、自分にも良い所があるんだなと自信が持てた／「〇〇が良かった」と褒めてもらったことは、自信につながるし、これからも伸ばしていこうと思った／皆が優しいので、自信を持てるようなコメントが多く自信を持つことができた。皆の評価をしっかり受け止めて、成長していきたいと思う。
- ・良い所や悪い所をしっかり指摘してもらったことで、自信につながり、これから頑張ろうと思った

(2) /皆と一緒に自分の映像を見ることは恥ずかしくて嫌だと思っていたが、良い点や悪い点を指摘してもらえて、「もっと頑張ろう！」という気持ちが強くなった。

- ・模擬保育中は頭の中がいっぱいで周りの様子がよく分からないけど、後で皆が「活動の時、〇〇ちゃんがとても楽しかったって言っていたよ」と子どもの様子を教えてくれて、それを聞いて自信につながった。
- ・評価が自分が思っていたよりも低くて、落ち込んだ。

5. 自分と他者との保育の視点の違いを知った

- ・保育活動について、いろいろな見方があることを知ることができた／自分の中では意識してやったことが、他人からは違うふうに捉えられることもあるのだということが分かった。
- ・自分とは違う意見が出てきて、それが新たな課題になった。
- ・自分がいくら頑張っても周囲の評価が高いとは限られないという現実の厳しさを改めて実感した。

6. 同級生（ピア）による評価の効果

- ・実習で自分の保育活動を保育者に評価されるという経験はあったが、相手が同級生となるとまた違った緊張感があった。
- ・改善点を同じ目線から具体的に言ってもらえたので、とても納得できた／同じ目線からの評価で、アドバイスも自分に対して的確にってもらえたので、今後活かしていこうと思った／保育者以外の人から評価されることは初めてだったが、保育者とは違った視点から評価されたので自分のためになったと思う。
- ・やはり自分では気づかなかった点・方法を知ることができて、友だちからの評価はとても大切だと思った／保育を学んでいる同じ立場の人からの意見ということで、自然と参考にしようという思いが生まれる。
- ・同じ保育者を目指している友だちに、「〇〇が良かった」と言われると、自信になった。
- ・先生からアドバイスをもらうよりも、前向きに受け入れられると思った。

7. 評価を受けることの意義が理解できた

- ・他人からの評価を受けて、その結果が自分に返ってくるということはあまりないことなので新鮮だった。
- ・客観的に評価してもらうことは大切だと思うので、貴重な場となった。
- ・数値として結果が出るので分かりやすかった／点数を付けられることに緊張したが、客観的に意見をもらえたし、自分の課題を数値でも把握することができて良かった。

8. 今回の模擬保育や評価の内容について

- ・やる前は緊張したし、友だちの目も気になったが、模擬保育が始まってしまうと、友だちの存在は気にならないくらい夢中になっていた。
- ・返された評価が無記名だったのがありがたかった。記名されていたら、「自分もできないくせに、言われたくない」等、素直に受け入れられなかったかもしれない。
- ・無記名のため、感じたことを素直に書いてもらえたので良かった。気を遣ったお世辞のような評価をもらうよりも、ずっと勉強になった。
- ・皆はとても優しく4や5をくれたけど、本当はもっと自分には悪い所もたくさんあったと思う。もう少し厳しめに評価してくれても良いと思った／良い点を挙げてもらえるのは励みになるが、改善した方がよい点をもっと指摘してもらったほうが今後の参考になる。
- ・今回のようにもっと互いに評価し合って成長できるような授業があっても良いと思う。

【表3 ビデオで自身の模擬保育を観察し、評価したことに対する感想（※括弧内は同様の意見の人数）】

1. 模擬保育中は気づかなかったことに気づくことができた

- ・本番では気づくことがなかった子どもたちや周囲の様子を見ることができて、新たな発見につながった（2）／本番はあまり余裕がなくて、子どもたちの細かい反応を意識することができなかったけれど、ビデオを見て、子どもたちが自分の問いかけに対してどんな反応をしているかなど知ることができて良かった／頭が真っ白になって活動を進めていて何をしたら自分自身で覚えていなかったり、その場の発言なども忘れていたり、子どもの発言や動きを把握していなかったりするの、ビデオ映像を見ることでこれらを知ることができてとても良い。
- ・模擬保育中は自分のことでいっぱいいっぱい全体の様子が見えていなかったが、冷静に映像で振り返ると反省する点がより明確に分かって良かった／保育をしている時には気づかなかった部分を新たに発見し、今後どういう所につけていけば良いのか、自分の視点を見つめ直すきっかけができた。

2. 自分の長所・短所や今後の課題が明確になった

- ・保育に関わっている時の自分の姿を見ることが初めてだった。自分で思っていたよりも話すスピードが速かったり、自分で思っていたよりも声に抑揚がなかったり、自分で見てみないと分からないこと気づくことができた。
- ・声のトーンや大きさなど改善点が分かった／自分が子どもたちの前で発する声のトーンや話しのスピード、選ぶ言葉など、自分が思っていたものと違って、改善したほうが良い所を見つけることができた。
- ・自分では気づかなかった動きをしていた。自分でビデオを見ることでしか分らなかったの、良かった／話し方や癖などは自分では気づきにくいので、映像を見て自分の改善すべき点をたくさん発見することができた／自分の態度や癖（私の場合、身体がふらふらしていて落ち着かない点）を確認できた。自覚していたが、無意識にやっちゃって、やはりという感じだった／自分は子どもと話す時以外は笑顔でなく、必死の表情だったので、反省すべき点だと思った／自分の声が思ったよりも低くてショックだった。自分は普段から気にしていたことなので意識していたのだが、まだまだ足りないことが分かった。
- ・自分の中では意識していても、ビデオで客観的に見てみるとできていないことが多く、新たな課題が見えた／自分の悪い所をビデオではっきりと気づけて、今後直していこうという気持ちが強くなった／本番は緊張して覚えていない部分もあったので、ビデオで客観的に見ることで、反省点がよく分かり、またその改善方法も考えることができた／自分が保育をしている姿を直接見たのは今回初めてで、恥ずかしかったが、落ち着いてみると良い所や悪い所がよく見えて、より明確な自己評価や目標設定ができた。
- ・自分で自分を見て、もっと頑張ろうと思った。

3. 客観的に自分の保育を見ることができた

- ・自分の保育活動の姿を見ることはなかなかできないので、とても良かった／自分自身の姿をビデオで振り返るという機会はなかなかないので、今回の授業で新たな気づきがたくさんあった。
- ・自分が模擬保育をした時のイメージと実際に映像で見るとでは違っていた（2）／ビデオで客観的に見ると、自分が思っていたイメージとは本当に違うということが分かった。改善点が自分で発見しやすい。
- ・自分からの目線と友だちからの言葉だけでなく、自分の姿を映像として自分で見られるのが良かった。

た／自分からの目線だと主観的になりがちだが、ビデオ映像を見ることで、冷静に自分の模擬保育の様子を見ることができたような気がする。

- ・客観的に見ることで、自分で反省することができた／人それぞれ感じ方や考え方が違うから、他人から指摘されるだけでなく、自分で気づくことは大切だと感じた。
- ・自分では意識してやっているつもりでも、外から見ると違うように見えるんだということに気づいた。大げさにやるくらいがちょうど良いのかもと感じた。

4. 他者からの評価内容を理解できた

- ・人に言われてもピンとこなかった点もビデオ映像を見ることで理解できた／友だちから指摘された点も、映像を見ると、「本当だ!」と思うことばかりで納得できた。
- ・他人からの評価も、ビデオで確認することで、しっかりと自覚・反省することができて良かった。

5. 子どもの視点が理解できた

- ・保育を受けている側にどう映っているのかということを知ることができた。
- ・自分で見ることでできない位置（子どもたちの位置）から自分の保育技術をビデオで客観的に見ることができたので、「子どもたちにはこんなふうに見えていたのか」と分かった／子ども目線で活動を見ることはなかなかないので、ビデオを観て「ここはこうしたほうが良いんだな」という点が見つかった。

6. DVD メディアの利点

- ・単純にDVDをもらえて嬉しかった。
- ・何度も見直して今後役に立てたいと思う。DVDが自分自身の宝物になった。
- ・DVDが手元に残ることで、後で何度も見直せるのが良い（2）／DVDに残るから、忘れずに覚えていられるので良い／DVDで手元に映像が残るので、何度も見直して、その度に改善点が発見できると思う／手元にDVDが残るので何度も見て確認できるから、一度だけ見るよりも、その時その時で違うことに気づける。
- ・自分の模擬保育はあまり良い出来でなかったが、DVDをじっくり見返して、もっと自分の力を高めたい。
- ・DVDとしてもらったので、何年後かにもう一度見て、「自分は成長したな」と思えたら、自信につながると思う／今回DVDをもらったので、何年後かに自分も成長したなと思えるかなと思うと少し楽しみだ。
- ・DVDで親や親戚にどのようなことを学んでいるのか見てもらえることができるので、今後の励みになる。

7. 今回の模擬保育について

- ・自分で自分の保育活動を見るのが恥ずかしかった。（2）

「頭が真っ白になって活動を進めていて、何をしたか自分自身で覚えていなかったり、その場の発言なども忘れていたり、子どもの発言や動きを把握していなかったりするので、ビデオ映像を見ることでこれらを知ることができてとても良かった」という意見のように、実際に子どもたちやピアを前にして模擬保育を行うという状況の中では気づけなかったことにも、ビデオを観ることで気

づくことができたようである。また、「自分が子どもたちの前で発する声のトーンや話しのスピード、選ぶ言葉など、自分が思っていたものと違って、改善したほうが良い所を見つけることができた」「自分の中では意識していても、ビデオで客観的に見てみるとできていないことが多く、新たな課題が見えた」「ビデオで客観的に見ると、自分が思っていたイメージとは本当に違うという

ことが分かった」など、ビデオを通して自身の表現力や子どもとのコミュニケーションの取り方を確かめたことで、課題点をより強く自覚できたようである。

4. おわりに—ピア評価とビデオ撮影による自己評価の効果

模擬保育における評価活動の目的とは、自身の現段階での達成度を具体的に把握し、以後の保育技術の改善に、より主体的・効果的に取り組み、学修や実習への意欲を高めることにある。このような到達度評価では、その評価内容の客観性を確保し、具体的な改善策を示すことが課題となるが、ピアと教員、そしてビデオによる自身の評価視点を組み合わせた今回の試みによって、学生は自身の長所や課題点を客観的に捉えることができたようである。「人に言われてもピンとこなかった点もビデオ映像を見ることで理解できた」「他人からの評価も、ビデオで確認することで、しっかりと自覚・反省することができた」との意見が挙げられた。

しかしピアや教員からの評価は、自身では気づかなかった課題点を気づく上で有効であるが、ともすると反発や疑念を抱くことにもつながりやすい。「評価が無記名だったのがありがたかった。記名されていたら、『自分もできないくせに、言われたくない』等、素直に受け入れられなかったかもしれない」「先生からアドバイスをもらうよりも、前向きに受け入れられる」という回答はその表れであろう。今回ビデオによる自己評価を組み入れたことで、他者の評価を素直に受け入れる素地ができ、子どもの視点に立って自身の保育活動を客観視する姿勢も養われたようである。実際、表1、3のように「子どもの視点が理解できた」という意見も相当に挙げられた。

また「良い点を挙げてもらえるのは励みになるが、改善した方がよい点をもっと指摘してもらったほうが今後の参考になる」という意見も出された。評価をさらに積極的に受けて、自身の保育技術を高めたという意欲・姿勢が見られるようになったことは、学生が今回の評価活動の意義・効

果を納得し理解できた証左であろう。

参考文献

- (1) 柴田義松・山崎準二編『教育の方法と技術』学文社、2005年、127-130頁。
- (2) 太田伸幸・児嶋文寿「講義ビデオの自己評価を用いた教授能力向上に関する実践—教科教育法Ⅱにおける学生による模擬授業を対象にした取り組み」『愛知工業大学研究報告』第42号A、2007年、15-22頁。